

平成29年度 地域連携活動報告書

連携先名称	長野県小県郡青木村	担当教員	飯森文平
活動状況	継続中	関連教員	山田隆一・杉原たまえ（国際農業開発学科 農村開発協力研究室）
協定締結日	2016/7/19	活動資金	研究室予算・学科予算
活動内容	【実習】研究室の実習班の一つに、青木村班を配置し、希望する学生が実習に参加する。教員も可能な限り引率するようにしている。実習は、基本的に金曜日～日曜日の2泊3日で行う。実習先は、蔬菜、果樹、花卉などの農家、狩猟組合、道の駅、新規就農者、福祉事業所など多岐にわたる。青木村役場の地域農業マネージャーの清水様が、訪問先の調整など全てご対応いただいている（別添1、2）。 ①2017年4月7日（教員：杉原・飯森 学生：1名）年度初めの打ち合わせ ②6月2～4日（教員：杉原・飯森 学生：11名）ニンニク収穫・えごま植え付けほか ③7月14～16日（教員：飯森 学生：10名）ニンニク出荷調整ほか ④8月4～7日（教員：山田・飯森 学生：9名）実習・夏祭り参加 ⑤10月20～22日（教員：山田・杉原・飯森 学生：4名）えごま収穫・脱穀・乾燥ほか 【セミナー】青木村において、年間連携活動報告会を、定例的に年度末に行っている。セミナー開催は広報で呼びかけ、連携活動成果を住民の皆様へ還元することを目的に実施している。研究室員は全員参加する。 2018年2月12～13日（教員：山田・杉原・飯森 学生：41名） 【調査】道の駅利用調査 2017年9月 2018年2月 【卒論調査】4名複数回		
活動成果	1. 卒業論文（指導：飯森文平助教） ①安藤豪汰「中山間地域における生活文化」 ②小川菜「長野県青木村における健康づくりの変遷と実状」 ③城下哲太「中山間地における地域組織の構造と機能について ―青木村における区を事例として―」 ④高木翔太「有害鳥獣捕獲と猟友会の将来像について―長野県青木村を中心として―」 2. 収穫祭文化術展 中山間地域の諸問題について、青木村での実習や調査を通じ、研究室の研究課題として取りくみ、「中山間地域の課題と展望～長野県青木村からみるコミュニティの機能～」というテーマで、発表をした。 3. 「青木村セミナー」の開催 地域連携活動の総括を、青木村において行った（別添3）。 4. 新規移住者の創出 実習に熱心に参加した学生が、青木村に新規移住した（神奈川県出身の女子学生1名）。4年生に在学中に、青木村役場の採用試験を受け、卒業後直ちに青木村に移住した。現在青木村役場職員。 5. 連携商品の販売 学生が生産・調整作業に関わったえごま油を、東京農大生協において販売（2300円/本 好評・2か月で完売）。搾油は、農大の地域連携先である長野県長和町の長和雑穀研究会（立岩先生主催）に、青木村がご協力を仰いで行っている（別添4）。		
課題・改善点	北村村長はじめ村役場の方々や住民の皆様のご支援により、大変充実した実習を行わせていただいている。訪問時には、毎回欠かさず村長による開校式が行われる。宿泊代と入浴料は、村の施設を無料で利用させていただいている。また、最寄り駅から村までと村内の移動も、村のご支援を受けている。訪問目的に合った訪問先などの選定も、周到にご準備いただき、大変恵まれた環境で活動を行わせていただいていることに、常々感謝している。 連携活動を継続していく上での課題は、費用の確保と連携内容の深化である。費用については、研究室内の予算では賅えず、学科の協力も得ている。今後、外部資金などの申請を積極的に行わなければならないと考えている。また、連携内容については、一研究室ではカバーできない課題があるため、連携を深化させるうえで農大内での多様な連携とそれを統括するような仕組みづくりが学内に必要なのではないかと考えている。 ※別添5 2016年度活動概略		